



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

| | |
|------------|---|
| Title | 元旦の祝膳 |
| Author(s) | 翁長, 君代 |
| Citation | 琉大農家便り(134): 6-7 |
| Issue Date | 1967-01 |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/21114 |
| Rights | |

元旦の祝膳

一年を通して、いろいろの行事のある中でも、年の始めを祝う元旦の朝ほど格別な味わいのあるものはありません。

すゝ払いや大掃除を終って、正月料理の支度、家族の衣類の準備とあわただしい大晦日までの数日とは打って違って、元旦の朝のなごやかさ、新鮮さ、その中で家族一同が打ち揃って、新しい年の喜びや希望を語り会える楽しいひとときであります。

近頃の若い人達の中には、昔ながらのやり方でお正月を祝う事は旧弊だという人がおりますが、昔からのしきたりには深いいわれや意味のあるものです。

近代生活の中であってか、こうした昔からの行事のいわれなどをよく知っておく事は大切なことではないでしょうか。

●お屠蘇

これは中国から伝わったものといわれます。薬局では「屠蘇散」といって小さな三角の袋に入れて売っています。この包みの中には、いろいろの薬草が入っています。これを三角の袋のままおちょうしに入れ、その中にみりん又は酒を注いでおきます。大晦日の夜用意して、これを元旦の朝、年の若い人から年の順に飲み回すことによって年を重ね、一家が邪気を払って無病息災で、長生きができるといわれております。



屠蘇セット

●しめ縄飾り

しめ縄は大払除を終えた玄関や部屋の入口等につるして、この中は清浄潔白で新年を迎えるにふさわしい事を意味します。

しめかざりの中央に橙を使いますが、これは、この家が世々代々に繁栄するようにとの表徴であります。沖縄では橙が少いので、みかんを代用しています。

又殊に包んだ木炭をしめかざりにつけるのは、この家が家族のために住みよいところであります様にとの願いをこめたものであります。

●鏡餅

昔は武家のよろいびつの前に、女子は鏡の前に、商家では帳場にお供えして、幸運を祈ったもので、鏡餅という名前はその形が昔の鏡に似ているところからその名が出来たといわれています。

現在では、鏡餅を三宝に白紙を二枚ずつ重ねて三方にたらし、その上に大小の餅をのせるのですが餅と一緒に昆布をかざることは家族に喜びごとのある事を願うものです。

●鏡開き

お鏡は正月の11日に、これをさげて、小さく割って、お雑煮やお汁粉にして食べます。この日をお鏡開きの日と申します。

沖縄では11日間も餅を重ねておきますと、青かびがつかますから餅の下に割箸を折ったものを入れて空気が通る様にし、小さい餅を重ねる時は、4本の妻ようじを大きい餅と小さい餅の間にさして、少しすき間を作っておくとカビの生えるのをふせげます。

餅は「歯がため」とか云われ長寿を意味するものであります。

●黒豆

黒大豆を洗って一夜水につけ、翌日これを軟かく茹で、砂糖と醤油で煮つめたものです。黒くま

めまめしく働く事の出来ますようにとの意味で正月にはなくてはならないものです。軟かく茹でた豆に砂糖をたっぷり入れて、一寸火にかけ、一夜そのままにして、翌日は豆の汁だけを鍋にとって煎つめ、その中に豆を入れてもう一夜そのままにし、翌日もう一度豆の汁を煮つめます。豆と汁を一緒にして煮つめると、折角軟かく茹でた豆が硬くなってしまいます。黒豆を煮るのには3日か4日かかりで煮ればまちがいありません。

●紅白なます

大根と人参のせん切りを甘酢につけたものです。お祝いの紅白の水引きにちなんで水引きなますとかいいます。

紅白なますは正月丈でなく、家庭に祝事のある時によく用いられます。

●するめ（寿留女）

するめいかを干したものを焼いて、細かくさき、好んでおとその祝い肴にするのは長寿を意味しているからです。

●おぞうに（お雑煮）

本土では北は北海道から、南は九州まで、正月の三日はお雑煮を頂きます。地方によって、お雑煮の中の餅の形や味つけ、入れる道具などそれぞれ違いますが、沖縄でお雑煮を祝う方は大変少い様です。同じ日本人として元旦にはお雑煮を祝い



お 雑 煮

たいものです。国費留学生で東京の大学生活をしていた沖縄の秀才が、下宿先きで元旦にお雑煮を出されて、これは一体何ですか？という質問をして笑われたという事実もあります。

沖縄の餅は焼いておくと固くなりますので焼かずに、油で揚げ、豚肉の美味しいお汁に入れて召し上って下さい。

●祝 い 肴

祝肴として広く使われているのは田作りです。これは片口いわしを砂糖醤油で照り煮にしたもので、稲作の豊作を願ったものです。

世の中が忙しくなったため此頃は、のんびりしていた普通の正月は無理ですが、出来るだけ正月らしい気分を出す事の出来る様に、演出する事が主婦の大きなつとめだと思います。そして希望にあふれる新しい年へのスタートを、家族一同足並みをそろえて、力づよく切る事にいたしましょ

う。

（翁 長 君 代）

（5 ページの続き）

ているのが普通の植物の根だが、中には気根といって茎、葉から根を生じたり、地中の根の一部が地上に伸び出す場合もある。

ラン科の植物では根の表皮が多層となり、内容を失って互に小孔で連なった根皮とよぶ特殊な組織を持ち、雨水を吸収して貯え、吸水気根と呼ばれる。従って普通の植物のように常時灌水をする必要がなく、植込材料も特に排水性を考えて鉢の破片などを入れたりする場合が多い。

形は球状のものが普通であるがファレノプシスのように扁平なものもある。

（図は主にC,L,WithnerのTHE ORCHIDS

より）

（上 里 健 次）